

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

2020 J3 ■順位表■第23節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	秋田	55p	+32	39	7	H●
2	長野	42p	+17	35	18	H●
3	熊本	42p	+12	39	27	HO AO
4	相模原	42p	+4	30	26	A●
5	岐阜	40p	+9	40	31	---
6	鹿児島	37p	+6	34	28	AO H●
7	鳥取	37p	+4	31	27	AO
8	今治	33p	+3	21	18	H△ AO
9	藤枝	32p	+1	36	35	A●
10	富山	31p	+6	37	31	AO
11	福島	27p	-7	32	39	AO H●
12	G阪23	26p	-5	33	38	HO
13	岩手	26p	-16	20	36	H△ AO
14	沼津	25p	-6	23	29	A△ HO
15	八戸	22p	-12	28	40	AO
16	讃岐	20p	-9	25	34	H△
17	YS横浜	20p	-20	26	46	HO
18	C阪23	16p	-19	22	41	A●

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

次回HomeGame

第26節 vs. カターレ富山

11/8 (日) 14:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

today's guest : SC相模原

2019 J3 10勝 8分 16敗 勝ち点38:15位

直近の対決と結果

2020/08/15

J3 - 10節@ギオンズ

相模原 3-1 岐阜

粟飯原尚平 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	SC相模原
2020/10/25 J3 - 23節@北上 岩手 0-4 岐阜	2020/10/25 J3 - 23節@ギオンズ 相模原 1-0 熊本
2020/10/18 J3 - 22節@長良川 岐阜 1-2 福島	2020/10/18 J3 - 22節@ピカスタ 讃岐 1-1 相模原
2020/10/14 J3 - 12節@長良川 岐阜 0-5 秋田	2020/10/11 J3 - 21節@ニッパツ YS横浜 0-3 相模原

SC相模原

2008(平成20)年に創設。創設年にいきなり全国クラブチーム選手権(県リーグ以下のチームのカップ戦)で優勝し全国タイトルを手にする。2010(平成22)年に、都道府県リーグ所属クラブとして初めてJリーグ準加盟を認定される。同年、地域決勝に「Jリーグ推薦枠」として出場(その7年前のザスパ草津以来)するも1次ラウンド敗退。翌年度も同制度で地域決勝に出場も決勝ラウンドで3戦3敗。結局、関東リーグ1部を制した「自力出場」で地域決勝を優勝しJFL昇格。2014(平成26)年からJ3参戦。過去に戸塚哲也、木村哲昌(現・FC岐阜チーム統括本部長)、辛島啓珠の3氏が監督を務め、元・FC岐阜の選手が移籍することも多く、縁のあるチーム。(吉田铸造)

●連戦の続く2020年J3リーグ。5連戦・ホーム3連戦の最終戦・10/18(日)第22節は、福島との試合。序盤から岐阜が試合を優位に運ぶが、しかしフィニッシュの精度が悪く、得点を奪えない。後半になってもゴールを決められずにいると、5連戦の疲労で動きが悪くなった岐阜は、試合終盤にカウンターで失点。同点に追いつこうと前掛かりになったところを再びカウンターで2失点目。アディショナルタイムに#16富樫佑太のゴールで1点を返した岐阜だったが、時すでに遅し。1-2で破れ、重要なホーム3連戦を3連敗するという、最悪の結果になってしまった。そして臨んだ10/25(日)第23節・アウェイ岩手戦。両チームとも自分たちの時間帯でシュートを決められずにいたが、前半終了直前に#9高崎寛之が先制点を挙げると、後半には#4甲斐健太郎、#27イヨハ理ヘンリーのCBコンビが揃ってセットプレーで追加点を奪い、福島を突き放す。アディショナルタイムには#10川西翔太がダメ押しのゴールを決めて、4-0の快勝。4試合ぶりの勝利を完封で飾ることができた。

これで、連敗を脱出することができたFC岐阜。順位は5位のままだが、前節に上位の長野・熊本が揃って敗れており、2位・熊本から4位・相模原は勝ち点42、岐阜との勝ち点差は2だ。3連敗してしまったが、まだJ2昇格の望みはある。シーズンは残り11試合、そして、今節から再び3連戦が2回やってくる。どのチームも十分なコンディションが整わない中での総力戦になるだろう。しかし、僕らはこれ以上負ける訳にはいかない。目の前の1試合を最後まで集中して戦い抜いて勝ちきり、勝利を積み重ね、そしてシーズン最後にはJ2復帰を掴み取る。

さて、今節の対戦相手は先述したSC相模原だ。昨季は15位、三浦文丈監督体制2年目として大幅に選手を入れ替えて臨んだ今季は、しかし新選手が多いためシーズン序盤はチームがフィットしなかったが、第17節から鳥取・長野を破るなどして5連勝。前節は熊本を倒して順位も岐阜を追い抜き、4位に。直近5試合での獲得勝ち点はリーグトップ、現在最も調子の良いチームと言えるだろう。しかし、この重要な“勝ち点6マッチ”を落とす訳にはいかない。相模原の要注意選手は、まずは10得点でJ3得点ランク3位タイの#10ホームロだろう。相模原の総得点の3分の1を叩き出すブラジル人FWを自由にさせないことが、岐阜のDF陣には求められる。スピードのある#13才藤龍治や#17星広太にも注意が必要だし、#3富澤清太郎や#4藤本淳吾といった実績のあるベテラン選手も揃っている。しかし、やはり岐阜にとっては#1ビクトルこそが最も注意すべき選手だ。昨季までの3年間、岐阜の守護神だったスペイン人GKの高いシュート阻止能力は、岐阜の選手たちも当然熟知しているだろうが、その牙城を崩さなければ岐阜の勝利はない。攻撃陣の奮起と活躍に期待したい。

相模原との初対戦だった前回8/15(土)アウェイ戦では、CKで#10ホームロに先制点を奪われた直後に#24粟飯原尚平のゴールで同点に追いついたが、#1ビクトルにPKや決定機を阻まれると、後半に2点を奪われ、1-3での敗戦。このホーム戦ではリベンジしなくてはならない。

そして今節から、この長良川でもアウェイ席が開放され、また太鼓等の鳴り物も許されるようになる。徐々に“いつもの日常”が戻ってくるが、しかし、いまだコロナ禍であり、制限があることを僕は忘れてはいけない。観戦ルールを遵守しつつ、J3ではトップの観客動員数を誇るホームスタジアムの応援で、選手の後押しをしよう。そして勝利を掴み、順位を上げていこう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第22節】岐阜 1-2 福島

●残念ながら、連戦の疲れが色濃く出た戦いになってしまった……。どちらにも得点の二オイがなく、0-0のドローなら御の字かなって感じで途中からは見ていたけど、そんな密かな願いも虚しく、終盤福島の綺麗なカウンター2発に沈められてしまった。気候も涼しくなって、相手の足が落ちてこなかったとか要因はいろいろあるけれど。あと仲田さん、もっと選手交代早めでも良かったかなあ。

まずはカラダもアタマもしっかり休めて切り替えよう。まずはそれから。そして課題を認識して、練習で対策してまた次の試合へ。でもこのままじゃ終われないだろ？ベンチ含めたチーム全体の奮起を期待しています。(岐阜の誇り)

●無敗の首位・秋田に完敗してから中3日。連敗は残念だったけど、この試合で勝利して、再び上位争いを…と、僕は思っていたし、みんなもそう思っていたことだろう。ところが、だ。どうも岐阜の選手たちの動きがおかしく見える。もちろん5連戦の疲労の影響も大きいと思うのだけど、なんとというか『秋田戦の影響が抜け切っていない』ように感じた。福島の選手には申し訳ないけれど、秋田の選手ほどには素早く寄せてこないから、もう少し余裕をもってボールを運んだりパスを出せば良いのに、焦ってミスをする場面が目についた。それと、僕が気になっているのはJ3下位チームとの戦い方だ。J2での岐阜は毎年残留争いをしてきた(苦笑)から、『まずは失点しない試合の進め方』というの理解できる。しかし、J3では上位チーム同士ならいざ知らず、下位チーム相手ならば、試合開始から少しぐらい攻守のバランスを悪くしても圧力をかけて攻撃してゴールを奪い、その後はバランスを戻して時間を流してゆく……勝利を重ねていくためには、そういった戦い方も必要なのではないかと思う。それは、チームで狙ってやったのかは分からないけれど(苦笑)、アウェイで前半早々に2点を奪った福島戦の戦い方だ。それを、攻守バランスを意識するあまりなのか、またチームの実力的に『このまま試合がすすめば、いつか得点できる』と思ってしまうのか、前へチャレンジできる場面で安易に後ろに下げてしまっている様に感じる時がある。

そして、そうやって時間が徐々に過ぎてゆき、気がついたら残り時間わずか。しかも、アウェイとはいえ中6日で体調を整えた相手に対し、こちらは中3日、自分たちの方が足が止まってきている。焦って攻撃に重心をかけたところで相手にカウンターを決められる…ええ、典型的な上位チームが敗戦するパターンですよ(溜息)。先制されて、さらに攻撃にシフトしたところで再びカウンターを浴びて追加点を許すのもまた、よくある失点&敗戦パターン。しかも、こういった試合を、今季最多の観客が入っているホームスタジアムでやってしまうというのが、またなんとも…。#16 富樫佑太が1点を返したので、まだちょっと救われた感があるけど、あの最後の時間帯の、迫力ある必死な攻撃を、もっと早い時間帯にやっていれば…そう思えてならない、残念な敗戦だった。(ささたく)

●手痛い敗戦だった。ものすごく重い一敗だった。ホーム3連敗は大誤算。今治戦までの4連勝を灰燼に帰すような連敗だった。延期になった秋田戦が組み込まれての長良川3連戦。何が何でも2勝1分け以上、最悪でも2勝1敗。そう踏んでいたホームでの連戦でのこの結果はあまりにも重い。特に、どうしても勝ち点3を取る必要があったこの試合を落としたのは厳しいと言わざるを得ない。福島には大変失礼な物言いであることは承知の上であえて言う。いろんな意味で負けてはいけない試合だった。クラブの規模、予算、観戦者数、そして掲げる目標の上でも、控え目に言っても、この試合だけは負けちゃいけない試合だった。もちろん、選手のコンディションもあるだろう。キツイ連戦だったとは思う。だが、それでも、なお勝ち点3を取らなければいけない試合だった。

岐阜市民総力戦、あるいは岐阜市民デー。そう銘打った試合に一度も勝てないのはどういうワケだ？もちろん、相手のあることだし、ウチの選手が手を抜いているワケじゃないことは十二分にわかっている。でもねえ……。昇格云々以前に、動員掛けた、勝たなきゃいけない試合はゼツタイ勝つ。じゃないと、リピーターは増

えないと思うんだけど。そんな、半ば八つ当たりのことを言ってしまうくらい、ショックな試合だったことよ。

ただ、悪い意味で衝撃的な3連敗を喫しても昇格圏内には勝ち点差が5。え？ウソでしょ？と言ってしまいそうな現状。ツイてる。ノれてはないけどツイてる。慌てることはない。全日程が終わった時に2位以内にいればいい。頼んだゾ！(ぐん)

●理解はしているつもりだ。直前の水曜・ホーム秋田戦で「心」も削られ「技」も削られ「体」も削られ。でも、その状態でも次の試合には臨まないといけない。さて、どうするか？という部分に着手はされてたのだから……と訝しむような試合だった。カラダは動かない、パスはつながらない、気持ちも続かない。一方の福島は、洗練とは無縁の、ただ走って寄せてくるDF。ところが、これが効いてしまう。これだけ「走るだけ寄せるだけのDF」を仕掛けてくるなら、福島も後半は脚が止まるだろうと踏んでいたのだけど、ところが止まらない。というか、それ以上に岐阜のサッカーが止まってしまって。もともとが縦に急ぐスタイルの福島には、まさに「おあつらえ向き」の状況が出来上がってしまったわけだ。

試合終了近くにトガシーが飛び出して1点返したのを僥倖としなければならぬ。この得失点差が効いてくる可能性もある。ポジティブに考えよう。(吉田 Casting)

【第23節】岩手 0-4 岐阜

●これが『冬の東北』か…と思わされる天候だった。急に雲行きが悪くなって雨が降り出したかと思えば、晴れて虹が見えたり、風向きや風量も急に変わる。アクシデントが心配な、そんな環境で試合は開始。

試合開始直後は、岐阜が圧倒的優位に立ったけれど、得点が奪えず、徐々に岩手にペースを握られる。そして岐阜のDF陣がボールを奪った後に、しかしクリアボールが岐阜の中盤に渡らず、再び岩手にボールを保持されるシーンが何度もあった。そして攻撃は、両サイドではボールを前へ運べるけれど、相手ゴール前での人数のかけ方やクロスの精度に問題があって、決定機に持ち込めない。一方の福島の攻撃では数回決定機があって、特にどフリーで#11 プレンネルにシュートを撃たれた時には「あ、やられた」と思いましたよ、ええ(苦笑)。その後すぐに、エアポケットのように岩手ゴール前で一瞬だけフリーになった#9 高崎寛之が、落ち着いてサイドネットにボールを「置いた」のは、流石は経験を積んだストライカーの面目躍如といったところ。

後半開始から岩手は#11 プレンネルが交替。はて、どうして…と思っていたら、CKを#4 甲斐健太郎がヘッドで相手GKごとゴールに叩き込む追加点！こんな見事なセットプレーでの得点って、いつ以来？(苦笑)そして2点差をつけられて交替カードを切っていく岩手なのだけど、ドローに終わったホーム戦とは異なり、#6 モレラトを下げたことで岩手は攻撃の迫力が減少し、手詰まり感が。すると今度は、FKを#27 イヨハ理ヘンリーがヘッドですらして3点目(J初ゴールおめでとう！)！いやー、岐阜のCBコンビが揃って得点した試合って、今まであったかしら？(笑) 試合終盤には#8 中島賢星のヒールパスを#10 川西翔太が豪快に突き刺して、トドメの4点目。無失点で、新加入の#35 レレウの試験運転もできて…しかし、#11 前田遼一さん、あの決定機は決めて欲しかった…僕は「よし！」と立ち上がりかけ、頭を抱えてのけぞったので後頭部ぶつけました(苦笑)。

終わってみれば岐阜の快勝。得失点差も少しは取り戻すことができた。だけど前半の決定機を岩手に決められていたら、結果は逆だったかもしれないと思うと、勝利の喜びと同時に、気持ちを引き締めなくてはとも思う、そんな試合結果だった。(ささたく)

●キックオフが13時なので、近場の唐揚げ屋さんで唐揚げ弁当をテイクアウト。そして「これは、キツールの唐揚げ。」と三回唱えてから平らげたのがよかったのかな？秋田に取られた5点のうち、秋田監督から4点返してもらえました。長良川のカタキを北上川で。いや、岩手さんにとってはほとんどもない八つ当たり、とばっちり、ですよ？ゴメンナサイ。

しかし、思った以上に仲間が現地に駆けつけてくれてたのがとても嬉しい。こんな厳しい状況の中、熊本戦からようやく解禁され

たアウェイ観戦。入場者数の過半数はウチのサポじゃね？と思ってしまった。さらに、久しぶりのリズム隊。太鼓が3つ？あったのにも驚いた。キックオフ直後は、ウチの音なのか、岩手なのか、わからなかったのはナイショ（笑）あと、始まってからしばらくは太鼓同士？のリズムが合ってなかったような気がする。でも、それは久々だったが故の入れ込み過ぎ、気分の高揚が過ぎたせいだと思えて、目頭が熱くなってしまった。

しかし、ホント、よく勝ったな。正直に申し上げればそういう内容。前半、二つの決定機のうち、どちらか一本でも決められてたらヤバかった。特に2つめ、ね。アレは肝が冷えた。

逆に、ウチはいいタイミングで取りましたね。前半終了間際と後半開始早々。日頃、ウチがやられてるパターン。セットプレーから2点、セットプレー絡みで1点というのもいい。イヨハはJ初ゴール、おめでとう！そして、カイケンの空中戦は、ウチの重要な武器ですね。あとは、前田神。アレは決めて欲しかった。もう、ほんの少し……でした。残念です。

それにしても、4点目をアシストした賢星の粘りと気の利いたヒール。次節はスタメンで使ってほしい……なんて思っちゃいますね。いずれにしても、今週末も重要な試合。とにかく、勝とう！勝つしかない！（ぐん、）

●今節からタイコ解禁。やっぱり、試合中の雰囲気が変わるね。それはとてもいいことなのだけど、「アルコール販売解禁には早い」とぼくは思った。タイコに合わせて叫んだり歌ったりしちゃうひとが必ず出てくるよ。

さて試合。「勝ちに不思議の勝ちあり」があるなら、「快勝に不思議の快勝あり」もあっていいよね？という試合だったかな。前半は、動きがよくなかった福島戦のまんま。岩手が先制するチャンスはいっぱいあったし、岐阜が先制するチャンスはほとんどなかった。30分だかの、岐阜サポですら「そこでハズす？」と思ってしまったブレンネルのシュート、あれが入っていたら試合はどうなっていたか。

しかし、前半終了近くの、「サイドネットの内側にパスする」かのような高崎のシュートで先制すると、後半開始早々にカイケンのヘッド、それからヘンリーのヘッド。岩手は件のブレンネルを前半で下げ、脅威になっていたモレラトも後半10分あたりで下げ、（岐阜側からしたらありがたいことだけど）自ら「手詰まり」になってくれたという感はある。4点目はケンセーのヒールパスに川西が飛び込んで。ちょうどその時、北上陸上には大きく綺麗な虹がかかっている。「吉兆だ、これは吉兆だ」と一部で盛り上がってしまった。まあ、同じ虹は岩手側にも見えていたはずなのだけどね（笑）。

という感じで、なんか「気づいたら圧勝」していたという試合だった。しかし、まだ不安はある。GKがソンスになって2試合目。行動範囲が松本と明らかに異なるためか、DFの最終ラインでのパス回しに危うさが見える。実際、件のブレンネルのシュートもカイケンからワタルへのパスを宮市にカットされてからの大ピンチだったし、そこは今後の課題だね。早く直してもらわないとシーズンが終わってしまう（苦笑）。

最後に。勝利して選手がサポ前に戻ってくるとき、場内アナウンスで「フェンスのところで集まらないで！」と何度も放送されていたけれど、あれは100%岐阜サポに向けて、です。試合中に選手に対して「隙を見せるな！」と思っているのなら、自分たちも新型コロナウイルスに対して隙を見せないようにしよう。せっかく、ようやく、ここまで『取り返した』のだから。（吉田鑄造）